

BERCニュース

唯一の経営倫理・CSR専門紙

BE O 懇話会開く、小山堅氏が講演

国際エネルギー情勢と日本の課題

市場の動向は…、安全保障は…

第15回BE O懇話会が5月16日、港区の国際文化会館榊山ホールで開催。

懇話会恒例の卓話は今回、日本エネルギー経済研究所常務理事の小山堅氏(写真)による「国際エネルギー情勢と日本の課題」。

最初に挨拶した鳥原光憲BERC理事長は「企業を取り巻く社会状況が変化中、東日本大震災後、電力需給をはじめとするエネルギーが重大な関心事になっている」と卓話の主旨を説明。

小山氏の講演の骨子は①最近のエネルギー価格の動向②世界の中長期的なエネルギー需要の見通し③石油や



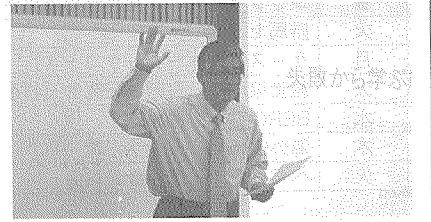
天然ガスなどのエネルギー資源の確保・獲得を巡る競争④地政学リスクなどの供給問題⑤長期的な観点でのエネルギー供給の制約懸念⑥環境や持続可能な性への課題。最後に大震災

による原子力発電所事故によるインパクトにも触れた。

主な内容は以下の通り。

エネルギー価格については、イラン情勢が心配される。イランからの石油が禁輸となっても、他の産油国で増産しているが、情勢が緊迫すると、石油価格

50号の紙面



- 2面「失敗から学ぶ経営塾」II 写真、「時局セミナー」BERC 関西部会
- 3面「クライシス・シミュレーション・トレーニング」4月度BERC 監査部会「経営倫理士アンケート」
- 4-5面「BERCニュース第50号を迎え：読者座談会」
- 6面「広がる企業年金への不安」
- 7面「メセナ協議会 震災復興ファンド助成対象決める」「スマホアプリから個人情報流出」「企業不祥事等の概要」「潮流」
- 8面「回顧随想・福原義春『経営の心』を想う」「地球交差点(24)」

高騰の恐れがある。だが、現在は世界第2位の輸入国。天然ガスについては、アジアが大幅に増大する見込み。資源獲得競争の激化が予想される。中国は90年代半ばまでは石油輸出国だった。

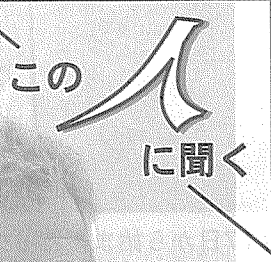
「A1J」に強制捜査 巨額の年金資金が消失」「社会貢献活動の現場から(47)」「読んだら老けないコラム」

「ATJ」に強制捜査 巨額の年金資金が消失」「社会貢献活動の現場から(47)」「読んだら老けないコラム」

「ATJ」に強制捜査 巨額の年金資金が消失」「社会貢献活動の現場から(47)」「読んだら老けないコラム」

BERC 創立15周年

TOPインタビュー



David Reid

監査会社、銀行勤務を経てテキサス・インスツルメント社入社、現在副社長兼エシックス・ディレクター。テキサス大学オースティン校で会計学修士号、同大ダラス校で行動管理修士号取得。米国公認会計士。米国テキサス州ダラス在住。58歳。

「グローバル企業として、CSRの基本をどう考えていますか。CSRについて、今、非常に高い基準が求められている、と思います。例えば社会、社員、環境に対して、傷つけないような配慮を、強く求められているのが現状です。」

例を挙げると、今、新入社員が会社の評判を非常に気にする。消費者などはその会社がどうしているか、期待する。リタイヤした人は、自分がかつて勤めた会社の将来を気にする。このように、ことに広く応える。

これが、CSRの役割として求められるようになっていく、と思います。また、会社のもっている情報を積極的に開

示しなければならぬ状況になっていきます。人体や環境に影響を与えるものを、人は買おうとしません。その企業で作られるものが、

悪影響を与えるものでないことをきちんと証明することが求められています。それはビジネスにとっても有効なアプローチであると

て、企業トップはどうあるべきだと思いますか。CEOはじめ役員には説明責任があります。彼らは会社の宣

「BERCという組織についてどう考えますか。さまざまな企業が集まり、勉強やトレーニングをしながら切磋琢磨している、と聞いています。経営倫理実践活動に効果があると思うし、今、ビジネス社会に必要な組織だと思います。」

BERCの活動を評価

T・副社長デヴィッド・リード氏

求められる高レベルCSR

示しなければならぬ状況になっていきます。人体や環境に影響を与えるものを、人は買おうとしません。その企業で作られるものが、

伝を担うだけでなく、ロール・モデルという存在でもあるのです。そういう意味で、責任を放棄することは、賢くない選択だと言えます。

企業は、利益を上げることを社会的責任を果たすことが、重なりつつある、ということ

企業は、利益を上げることを社会的責任を果たすことが、重なりつつある、ということ

企業は、利益を上げることを社会的責任を果たすことが、重なりつつある、ということ

BERCニュース編集長

商社のデータ改ざんを事例に

「失敗から学ぶ経営塾」始まる

BERC 初の夜間講座



4月17日から始まった「失敗から学ぶ経営塾」担当の樋口晴彦氏=BERC セミナー室で

今年度から始まった研究会「失敗から学ぶ経営塾」の第1回目が4月17日に開かれた。アドバイザーは警察大学校警察政策研究センター主任教授の樋口晴彦氏。

組織不祥事を予防するための留意点を、樋口氏による事例分析の講義と、それに続く参加者とのディスカッションで習得するのが狙い。3回目までの研究事例はアドバイザーが用意、それ以後は参加者の意見をもとに決めていく。第1回目は、ディーゼルの排気ガス浄化装置の開発に絡む、大手商社のデータ改ざん事件を取り上げた。メーカーから招いた技術者と浄化装置の開発に取り組んだ担当者は、スケジュール内に要求する性能を達成できないと分かる。しかし実質的な販売期間が短い商品なので、開発期間を延ばすと、ビジネスとして成り立たない。事業が頓挫することを恐れて不正行為を行った、というもの。この不正事件が起きた背景に、その商社の成

「倫理教育は地域の言葉で」

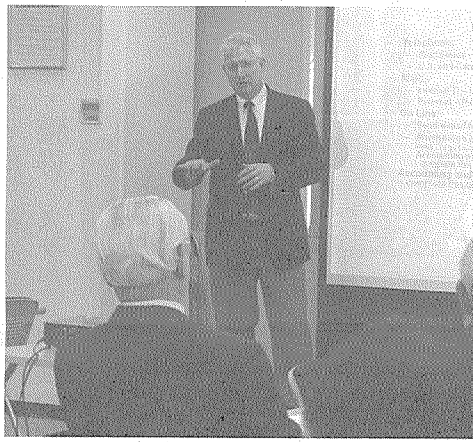
時局 リード・T・I副社長が講演

BERC「時局セミナー」が3月6日、開かれた。今回はテキサス・インスツルメンツ・インコーポレイテッド(T・I)副社長兼エグゼクティブ・ディレクターのリード・T・I氏が講演した。同社日本人はBERC会員で、創立時からメンバー。II面に関連記事

講演ではまず、倫理教育の基本について、「社内にはいろいろな価値観をもつ人がいるので、まず、気風、個性、モラル、会社への忠誠、組織体などに関して、一つの価値観をつくる

ることが大事だ」などと述べた。また「T・I社の倫理教育プログラムは51年以上続けてきた実績があり、それが書式化されている。しかし、新しい文化を持つ国にも当てはまるのかは、現在、検証している」という。

「アジアでは、地域特有のリスクに対応するため、集中的にトレーニングをしている。より高いレベルの倫理観を持ってもらうため、自尊心にも訴えている。一方でアジアは離職率が高い。社員



倫理教育の大切さについて熱心に講演するリード氏

「倫理教育は、基本的にその地域の言葉で行う。今、テキストを11の言葉で訳している。そのまま訳すと分

らに入れ替わりが激しい中で倫理観を待たせる教育訓練が大変必要だ。アジアでの取り組みの、具体的な問題については「伝統との兼ね合いが難しい。コミュニケーションでものを共有する、という意識のあるところでは、公私の区別があいまいになるので、そういう伝統的なやり方を認識しなければいけない」。

BERC活動 (2012年3月~5月)

日	曜日	内容
3月		
2	金	コンプライアンス担当者の為の法令研究会
6	火	時局セミナー
12	月	ケース部 [ベーシックコース]
13	火	経営倫理の教育研修研究会 [技術編]
14	水	BERC会員説明会
22	木	海外ESG動向研究会
27	火	ヘルプライン実務者分科会
4月		
9	月	コンプライアンス担当者の為の法令研究会
10	火	経営倫理の教育研修研究会 [内容編]
11	水	監査部会
11	水	ケース部会 [ベーシックコース]
12	木	個人倫理の醸成法研究会
16	月	経営倫理の統合マネジメント部会
17	火	経営倫理総合部会
17	火	失敗から学ぶ経営塾
18	水	CSR部会
18	水	関西部会
19	木	パワー・ハラスメント研究会
23	月	ケース部会 [アドバンスコース]
24	火	ヘルプライン研究会
25	水	次世代の危機管理研究会
26	木	企業不祥事研究会
5月		
8	火	経営倫理の教育研修研究会 [内容編]
9	水	監査部会
9	水	ケース部会 [ベーシックコース]
10	木	個人倫理の醸成法研究会
11	金	関西部会
11	金	コンプライアンス担当者の為の法令研究会
14	月	ケース部会 [アドバンスコース]
15	火	経営倫理総合部会
16	水	BEO昼食懇話会
17	木	パワー・ハラスメント研究会
21	月	経営倫理の統合マネジメント部会
22	火	海外ESG研究会
22	火	失敗から学ぶ経営塾
23	水	次世代の危機管理研究会
24	木	企業不祥事研究会
24	木	短期集中セミナー
25	金	短期集中セミナー
29	火	ヘルプライン研究会
30	水	CSR部会

人権と腐敗防止 2リスクで講義 2月度 関西部会

2月度BERC関西部会が2月23日、大阪府商工会館で開かれた。前半はBERC上席研究員・池田耕一氏(立

果主義があり、その後社長が成果主義の廃止に取り組んだ。後半1時間のディスカッションでは、事件の原因が成果主義だけだったのか、という点についてさまざまな意見が出た。「これは組織ではなく、問題を起こした社員個人の問題ではないか」という意見も出たが、それを受けて樋口氏は「個

かりに文章になるので平易な言葉にしていく。これに関連して「少数者の事業所でも、その言葉に訳した教科書をつくるのか」という聴講者の質問に対しては「少数数の事業所では私自身が現地に行つて説明している」と答えた。

最後に「大切なのは変化に対する備え。現状はこうだが、この先はこうなるのではないかと、という次の予想を立てて、取り組まなければいけない」などとまとめた。

「これは組織ではなく、問題を起こした社員個人の問題ではないか」という意見も出たが、それを受けて樋口氏は「個

果主義があり、その後社長が成果主義の廃止に取り組んだ。後半1時間のディスカッションでは、事件の原因が成果主義だけだったのか、という点についてさまざまな意見が出た。「これは組織ではなく、問題を起こした社員個人の問題ではないか」という意見も出たが、それを受けて樋口氏は「個

果主義があり、その後社長が成果主義の廃止に取り組んだ。後半1時間のディスカッションでは、事件の原因が成果主義だけだったのか、という点についてさまざまな意見が出た。「これは組織ではなく、問題を起こした社員個人の問題ではないか」という意見も出たが、それを受けて樋口氏は「個

果主義があり、その後社長が成果主義の廃止に取り組んだ。後半1時間のディスカッションでは、事件の原因が成果主義だけだったのか、という点についてさまざまな意見が出た。「これは組織ではなく、問題を起こした社員個人の問題ではないか」という意見も出たが、それを受けて樋口氏は「個

企業を取り巻く法の変化など解説 12年4月度 関西部会

2012年度・第1回BERC関西部会が4月18日大阪府商工会館で開かれた。前半はBERC上席研究員・高野一彦氏(関

2012年度・第1回BERC関西部会が4月18日大阪府商工会館で開かれた。前半はBERC上席研究員・高野一彦氏(関

今日、企業が抱える多くのグローバルリスクのうち、「人権リスク」と「腐敗防止リスク」が重要だという。端的にいえば、人権侵害に「直接的加担」と「受動的加担」の両方がある。加担には注意が必要と解説。あるグローバル企業が外国で「知ら

最近の企業不祥事の傾向として、内部告発や消費者告発から「発

後半はBERC上席研究員・高野一彦氏(関西大学)が「企業を取り巻く法の変化とコンプライアンス部門の役割」のテーマで講演した。企業を取り巻く法は民法などの「契約法」、不正競争防止法などの「情報法」、会社法や金取法などの「内部統制関連」、公益通報者保護法などがあり、それらを順守した上でコーポレートガバナンスが機能している。

危機対応でトレーニング

法令研究会 記者会見で質疑も

BERCの「コンプライアンス担当者」の為に「法令研究会」(関西大学准教授の高野一彦氏担当)が、3月2日クライシス・シミュレーション・トレーニングを行った。2011年度の最終回。

緊急危機(クライシス)の発生を想定、そのシナリオと与えられた役割に基づき、対策会議や記者会見などをプレー(演技)した。複数

数の事案が絡むなどして複雑なクライシスに対する法的思考や危機対応の能力を養うのが目的。

ケースのテーマは「製品の安全性」。教育玩具の通信販売を行う会社で、18万人の会員に

「ベト」について悪臭がする「なめた子」の吐き出しの苦情が出た」などの苦情が入る。この対応のため

フェーズ4は記者会見。まず社長が経過や全品回収の方針を述べた後、記者役の10人の研究会メンバーか



緊急記者会見などクライシス・シミュレーションの参加演技者たちも緊張気味...

「IFRS一部適用、包括利益会計基準解説」内部監査上の留意点」をテーマに講演が行われた。

国際財務報告基準テーマに 4月度監査部会

12年4月度のBERC監査部会が11日(水)に東京・弘済会館で開かれた。講師は、東川裕樹氏(有限責任監査法人トーマツパート

ナー・公認会計士)で、「IFRS一部適用、包括利益会計基準解説」内部監査上の留意点」をテーマに講演が行われた。

BERC入会の御案内
経営倫理実践研究センター(BERC)では、賛助会員の入会申し込みを受け付けています。BERCは、我が国初の経営倫理の実践研究専門機関です。企業不祥事、不正の防止や企業の社会的責任を果たすため、理念普及、教育研修のノウハウ提供、実践活動研究グループへの参加、会員社間の交流と情報交換など幅広い活動を進めています。

経営倫理実践研究センター事務局へ。
電話 03(3222)1477
FAX 03(3222)1478

意欲溢れ「16期」スタート

〈経営倫理士取得講座〉

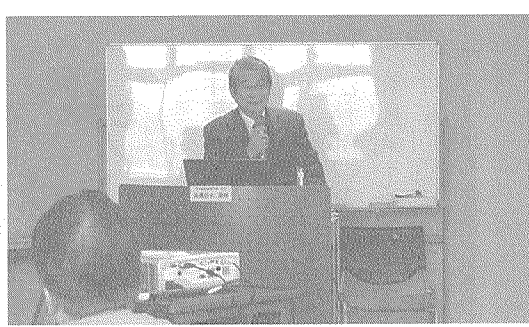
新任担当者ら受講日立つ



経営倫理士講座・開講式で挨拶する辛島睦理 専務 東京港区の石山記念ホールで

5月15日、第16期の経営倫理士取得講座(日本経営倫理士協会主催)がスタート。第1回目が東京都港区の石山記念ホールで開かれた。今回の受講生は29人。

開講式では辛島睦理専務が挨拶。「これまで」



経営倫理士講座第1回目の「経営倫理の基礎理論」を講義する高橋浩夫氏

で450人の経営倫理士を社会に送り出し、すそ野が広がっている。経営倫理士の役割は重要で、企業の第一線で活躍できるように勉強してください」などと述べた。

次に千賀瑛一専務理事によるガイダンス。

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

「経営倫理をCSR中心に体系的に学べる」

第50号を迎え 座談会

読者座談会・出席者

(アイウエオ順)

荒井 隆氏

(三菱地所株) 法務・コンプライアンス部副長

仲沢伸一氏

(東京ガス株) コンプライアンス部コンプライアンス推進室主幹

夏井孝子氏

(富士ゼロックス株) 人事部人事部労政グループ

林 和明氏

(日本生活協同組合連合会) 総合マネジメント室内部統制室室長

柳澤清司氏

(株)住原製作所 企業リスク管理統括部

CSR・人権・コンプライアンス室副室長

手島祥行
千賀瑛一

BERC専務理事
BERCニュース編集長

手島祥行BERC専務理事 BERCは創立15周年になります。BERCニュースも50号を迎えました。思い返せば、BERCが5周年を迎えた時、皆さま方にさらにお役に立てるように、定期的な情報提供をしようというので、このBERCニュースを発刊しました。最新のニュースを経営倫理の視点で紹介する記事などを加えて、お手



荒井 隆氏



仲沢 伸一氏

元の届けてはどうか、という話が出て「やつてみよう」と始めました。苦しい時もありましたが、続けることに意義がある、と頑張ってきました。本日は、読者である会員企業の方々の忌憚のないご意見を頂戴して、さらによい新聞づくりに生かしたい、と思っております。

千賀瑛一 BERCニュース編集長

又編集長 これまで年6回発行でしたが、諸般の事情で新年度から年4回に変更します。ただし紙面の質を落とさず内容を豊かにしていきたい。BERC活動の重要な節目や、大きな企画などがあれば重点的に報道したい、と考えています。

まず、BERCニュー

仲沢伸一氏 私どもの

夏井孝子氏 私が所属する人事部労政グループは全員に回覧し、CSR部と法務部コンプライアンスに配布しています。業務中に回覧で回つてきます。1面や中面のインタビュー記事が親しみやすく読みやすいので、楽しみにしています。私だけでなく他の人事部長も同様です。

法務部では「法務ニュース」という、最近起きたコンプライアンス上の問題などを載せて簡単に読めるものを2週間に一度ほど発行していますが、その編集に「不祥事一覧」を参考にしているようです。

柳澤清司氏 社長と企

の記事があるため、日常業務の色々な場面で参考にさせて頂いています。

林和明氏 私の内部統制室と関連部署の総合マネジメント室で回覧し、隣の人事部の部長にも読んでもらっています。担

当に聞くと、不祥事一覧は研修などになり活用されているそうです。BERCニュース全体にも兼ねたりしています。

千賀 字の大きさに

いては、いろいろ検討した結果、今の大きさに

しています。

柳澤 コンプライア

スという観点で行くと、不祥事の事例紹介が一番分かりやすく、社員に浸透させる上でも有効だと思います。ただ、その事件がなぜ起きたのか、どう防ぎべきか、というところにも踏み込む必要があるのでは、という気が

します。

千賀 BERC会員や経営倫理士からの声では、不祥事があつたら、まず発生の原因と反省、それに加えて信頼回復の過程を報道してほしい、という声が多い。

夏井 私も最も楽しみにしている記事です。その組織の中でのコンプライアンスの視点が浮き彫りになってくる。人物も分かり、企業も分かり、ということと理解が深まります。発言の中に光る言葉もあるのでは、メモをして私の糧にしよう、と思うこともあります。

最終面は、心の窓的な紙面、息抜きになるものを、ということ編集しています。

林 「地球交差点」や「40歳からのAgelless」は結構好きな分野ですので、必ず読んでいます。4~5面は、やや社説的な見解が書かれていますが、編集する方は大変だろうなと思っ

て見えています。全体のものの見方は参考になります。

千賀 記者の視点が入ってきています。分析・論評の要素が出てきますから、ただし一方的な意見や批評にはならないように、編集委員会などで

チェックしています。

手島 一般紙と違って倫理問題で「一歩踏み込む」ことをBERCニュースでは心掛けていますから、会員社情報「生の声」で提供することは大事だと考えています。

夏井 もう一つのインタビュー記事「経営倫理

私の取り組み」も大切に読んでいます。親しみやすく読みやすいことから、これは楽しみにしています。私だけでなく他の人事部長も同じ様です。

千賀 私たちもBERCニュースの特色として「人間くささ」を紙面に

出そう、と努力しています。一般社員にとってコンプライアンスや経営理念はやはり硬い話ですから、できるだけ関係者に登場してもらい、紙面を通してのスキシップを図るよう

にしています。

仲沢 2面の研究会を紹介しているページについてですが、これも「人くささ」を出す、ということ、研究会に参加したメンバーの感想や意見を

紹介するのもいいのでは。研究会活動のアピールにもなると思います。

荒井 私は法令研究会に出ています。ただ何をしたという記事だけでは折角の熱気や活力が伝わらない。確かに、参加者の声を載せる方がいいと思います。

仲沢 研究会で講師の先生がどういう話をされたのかを読んで、私どもの講演会の講師を選ぶ時の参考にしています。そこに受講者の感想があると、よりいいかと思

います。

不祥事一覧は研修会などで活用 データベース化について検討を

荒井 柳澤

会社で読んでいるのはもちろん鳥原光憲会長(BERC理事長)、コンプライアンス部は全員、ほかにも監査部のコンプライアンス監査グループ、広報部CSR室でも回覧しています。

私も、A4判1枚の「コンプライアンス情報」を2カ月に一回発行して、そのネタとしても活用しています。特に不祥事一覧と関連するものには注目しています。この不祥事はどこに問題があるのか、私たちの職場に置き換えたなら、どういうところに注目すべきか、という視点を入れ、内容に反映しています。

柳澤清司氏 社長と企業で聞くと、不祥事一覧は研修などになり活用されているそうです。BERCニュース全体にも兼ねたりしています。

千賀 字の大きさにいては、いろいろ検討した結果、今の大きさにしています。

柳澤 コンプライアンスという観点で行くと、不祥事の事例紹介が一番分かりやすく、社員に浸透させる上でも有効だと思います。ただ、その事件がなぜ起きたのか、どう防ぎべきか、というところにも踏み込む必要があるのでは、という気が

します。

千賀 BERC会員や経営倫理士からの声では、不祥事があつたら、まず発生の原因と反省、それに加えて信頼回復の過程を報道してほしい、という声が多い。

夏井 私も最も楽しみにしている記事です。その組織の中でのコンプライアンスの視点が浮き彫りになってくる。人物も分かり、企業も分かり、ということと理解が深まります。発言の中に光る言葉もあるのでは、メモをして私の糧にしよう、と思うこともあります。

最終面は、心の窓的な紙面、息抜きになるものを、ということ編集しています。

林 「地球交差点」や「40歳からのAgelless」は結構好きな分野ですので、必ず読んでいます。4~5面は、やや社説的な見解が書かれていますが、編集する方は大変だろうなと思っ

て見えています。全体のものの見方は参考になります。

千賀 記者の視点が入ってきています。分析・論評の要素が出てきますから、ただし一方的な意見や批評にはならないように、編集委員会などで

チェックしています。

手島 一般紙と違って倫理問題で「一歩踏み込む」ことをBERCニュースでは心掛けていますから、会員社情報「生の声」で提供することは大事だと考えています。

夏井 もう一つのインタビュー記事「経営倫理

私の取り組み」も大切に読んでいます。親しみやすく読みやすいことから、これは楽しみにしています。私だけでなく他の人事部長も同じ様です。

千賀 私たちもBERCニュースの特色として「人間くささ」を紙面に

出そう、と努力しています。一般社員にとってコンプライアンスや経営理念はやはり硬い話ですから、できるだけ関係者に登場してもらい、紙面を通してのスキシップを図るよう

にしています。

仲沢 2面の研究会を紹介しているページについてですが、これも「人くささ」を出す、ということ、研究会に参加したメンバーの感想や意見を

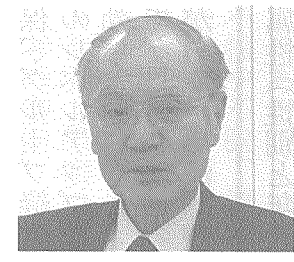
紹介するのもいいのでは。研究会活動のアピールにもなると思います。

荒井 私は法令研究会に出ています。ただ何をしたという記事だけでは折角の熱気や活力が伝わらない。確かに、参加者の声を載せる方がいいと思います。

仲沢 研究会で講師の先生がどういう話をされたのかを読んで、私どもの講演会の講師を選ぶ時の参考にしています。そこに受講者の感想があると、よりいいかと思

社長も目を通し他社の状況把握 ユニークな取り組みを紹介して

柳澤 林



手島 祥行専務理事



千賀 瑛一編集長

「人間くささ」を紙面に

出そう、と努力しています。一般社員にとってコンプライアンスや経営理念はやはり硬い話ですから、できるだけ関係者に登場してもらい、紙面を通してのスキシップを図るよう

にしています。

仲沢 2面の研究会を紹介しているページについてですが、これも「人くささ」を出す、ということ、研究会に参加したメンバーの感想や意見を

紹介するのもいいのでは。研究会活動のアピールにもなると思います。

荒井 私は法令研究会に出ています。ただ何をしたという記事だけでは折角の熱気や活力が伝わらない。確かに、参加者の声を載せる方がいいと思います。

仲沢 研究会で講師の先生がどういう話をされたのかを読んで、私どもの講演会の講師を選ぶ時の参考にしています。そこに受講者の感想があると、よりいいかと思

います。

千賀 原則として3面は、BERCと連携組織である日本経営倫理士協会(ACBE)の情報も載せています。これに続くページでは不祥事一覧はじめ、企業不祥事動向の分析や解説を載せています。幅広く深掘りした記事、解説を載せるようにしています。

最終面は、心の窓的な紙面、息抜きになるものを、ということ編集しています。

林 「地球交差点」や「40歳からのAgelless」は結構好きな分野ですので、必ず読んでいます。4~5面は、やや社説的な見解が書かれていますが、編集する方は大変だろうなと思っ

て見えています。全体のものの見方は参考になります。

千賀 記者の視点が入ってきています。分析・論評の要素が出てきますから、ただし一方的な意見や批評にはならないように、編集委員会などで

チェックしています。

手島 一般紙と違って倫理問題で「一歩踏み込む」ことをBERCニュースでは心掛けていますから、会員社情報「生の声」で提供することは大事だと考えています。

夏井 もう一つのインタビュー記事「経営倫理

私の取り組み」も大切に読んでいます。親しみやすく読みやすいことから、これは楽しみにしています。私だけでなく他の人事部長も同じ様です。

BERCニュース 読者

仲沢 私はこの論評の部分は興味があります。不祥事一覧を見て、それぞれについて自分でも調べて考えてみるのですが、それに加えて、新聞記者がどうという視点で見ているのか、というところがとても参考になるので、しっかりと読んでいます。何か不祥事があった時、その出来事を知るだけで終わらず、社会がどのように受け止めているか、その問題を誰がどのように感じているか、ということをつかみ、問題察知能力を高めるためにも役に立つと思います。

それから社員教育で、いろいろな企業不祥事の事例を取り上げて、以前は法令違反、食品なら健康被害があったもの、という範囲だったが、今は法律違反ではなくても販売中止に追い込まれるなど社会の目が変わって

きている、という解説をしている。そういう意味では、過去の事例も教育のツールになります。「昔はセーフだったけれど、今はアウトだ」という視点で書いてもらえると、ありがたい。法改正の記事もタイムリーに出してもらえると、助かります。

荒井 BERCニュースの発行が年4回になるからこそ、という強みもあると思うのです。我々は、出来事そのものは日々の新聞などで把握できます。例えば、独禁法違反の摘発が相次いだような場合、独禁法とはどういう法律か改めて解説するなど、事実を追うだけでなく、その背後にある法令をお

さらいする、という特集記事のようなものが欲しいですね。コンプライアンスと法令は不可分ですから。

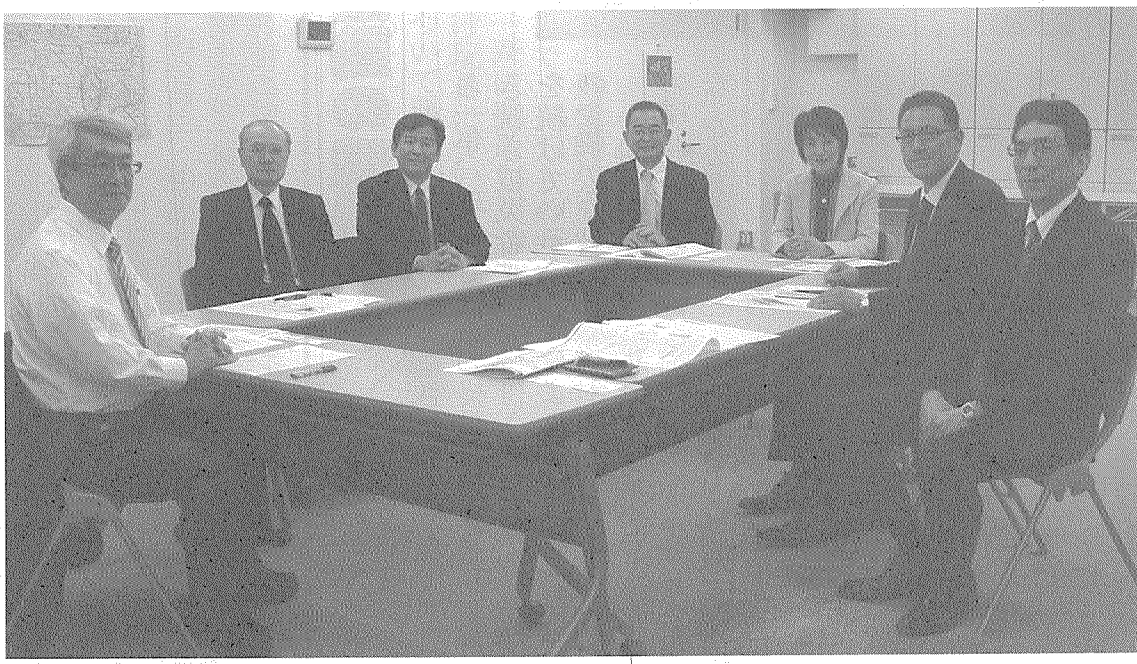
柳澤 企業不祥事の「その後」のところ、信頼回復などのことが、たまにはあればいいかな、と思います。

千賀 不祥事発生後の信頼回復については、取材が難しい。一度、不祥事を起こすと、企業はメディアに対してガードが堅くなるのと、信頼回復の取り組みは短期間で実現するのではなく、長期的なものだから、やはり、時間が経ってからのでないかと、取材できないケースが多い。

手島 社内のコンプライアンス意識の浸透のため、コンプライアンス担当部長が社内各部門の社員を集めて座談会をする、ということもあるかと思うのです。そういうものが取材できれば、他社事例の良い紹介ができると思います。

千賀 BERCニュースへの情報提供や取材依頼も、少しずつ出てきています。しかし、まだ企業の中には、注目されそうな取り組みをしていないから、知られていないところがある。皆さんの会社や関連企業での取り組みについても、ぜひ紹介したいと考えます。

他社でやらない取り組みを



BERC ニュース座談会で活発に意見を交わす(左から)千賀、手島、荒井、林、夏井、仲沢、柳澤の各氏

親しみやすいインタビュー記事 企業間の交流を生み出す紙面を

夏井 仲沢



夏井 孝子氏



林 和明氏



柳澤 清司氏

長期的に忍耐強くやらなければならぬ。どうしても飽きが来ます。他社も悩んでいるのだから、と「我が社の取り組み」では、他社ではやっていない、ユニークな取り組みがもしあれば、ぜひ紹介していただきたい。「わが社のユニークな点」と言うか「こんなこと、やっていないでしょうか」というインタビューのあるもの。各社1点ぐらいは必ずあるだろうと思うので、

もう一つ、いろいろなコラムを利用して、新任担当者向けの記事があるといいな、と。新任担当者に「これ、読んでおけ」と言えるようなもので、年4回の連載で、読み終わると一通りのことが分かる、というふうなものがある、と思うのです。

それから、「不祥事一覧」のデータベース化も検討してみたいかと思いますが、不祥事にもいろいろな種類があります。食品事故、横領、人命に関わるようなこと、経済事件など、様々な切り口で検索できるようにすると、各社で資料を作る時などに、

各社で資料を作る時などに、

福原前理事長の随筆が楽しみに 参考になる記者の「不祥事分析」

荒井 仲沢

夏井 私の日々の業務の中で、「あ、こういう視点もあつたのか」ということをふつと気付かせていただければ、それで十分という気がしています。

柳澤 経営倫理は不祥事といったマイナスの側面だけではないはずで、プラスの側面があるはずなんです。そこはCSRになります。CSRも社会貢献活動に限らないと思うのです。「唯一のCSR専門紙」とうたっているのですが、そういう活動紹介で終わらないで、BERCらしい切り口で、CSRにどううまく焦点を当ててアピールしてい

くか、ということが一つ課題かな、という気がします。

もう一つ、グローバル化の中で、海外の事業活動でいろいろな問題もあつて、各社が実際に海外の子会社でどういう活動をしているか、という苦労を求めているので、その辺も、今後、充実していく必要があるのかなと思っ

千賀 最後にBERCニュースへの要望がありましたら、お聞かせください。

林 コンプライアンスと経営倫理の取り組みは、

千賀 きょうは、いろいろなき指摘、ご意見を頂きありがとうございます。

広がる企業年金への不安

積み立て不足解消も課題

年金コンサルタント会社主催の「企業年金説明会」はこのところ、参加する企業担当者が増え、かつてない活況を呈している。契機はA I J投資顧問による巨額の年金資産消失問題。厚生年金基金制度が抱える矛盾があらためて浮き彫りになり、中堅・中小企業を中心に、自らが加盟する基金の将来を危ぶみ始めたようだ。

日本の年金制度は「3階建て」に例えられる。国民すべてが加入する国民年金が1階部分、サラリーマンが在職中の給料額に応じて受け取る厚生年金などが2階部分で、ともに「公的年金」と呼ばれ、年金積立金管理運用独立行政法人が運用している。企業年金は3階部分に当たり、企業が従業員のための生活資金を保障するため基金に運用を委託し、公的年金に上乗せする形で退職後に支払う。

各企業年金は高金利時代に運用益を増やそうと、厚生年金の一部を国から預かって「代行部分」として運用する厚生年金基金制度をこぞって活用。大手企業が母体となって設立する「単独型」、グループ企業などでつくる「連合型」、中小企業が集まった「総合型」など、各種の厚生年金基金が

損失が膨らみ、負担額も増加するのは必至だとして、大手企業は2000年前後に、巨額の負担覚悟で相次ぎ厚生年金基金から脱退した。だが資金力に乏しい中堅・中小企業は追加拠出ができず、基金からの脱退をためらった。そうこ

うしている間に基金の財政状況は一段と悪化。高利回り運用を提示したA I Jの餌食になってしまったといえる。

ただ厚生年金基金から脱退した大手企業も問題を抱える。企業年金の運用実績が予定利率に届かず、積み立て不足を解消するため追加拠出を迫られるからだ。根本的な解決策はO Bに支払っている給付水準を引き下げるか、現役加入者の保険料を引き上げること。しかしO Bの抵抗は激しく、給与水準が低迷している現役には余裕がない。(学)

巨額の年金資産が消失

厚労省、救済策検討へ

A I J投資顧問(東京、浅川和彦社長)による年金資産消失問題で、証券取引等監視委員会が3月23日、金融商品取引法違反(契約の偽計)容疑で同社などを強制調査した。虚偽の運用実績を示すなどして、顧客の厚生年金基金(企業年金)に投資一任契約を結び、運用損の発生で巨額の年金資産を消失させた疑い。

監視委によると、A I Jは運用するファンドの収益が逆ざやだったにもかかわらず、浅川社長は自分の相場観に基づいてファンドの時価を実際より高く算出。顧客の企業年金に対し、虚偽の運用実績

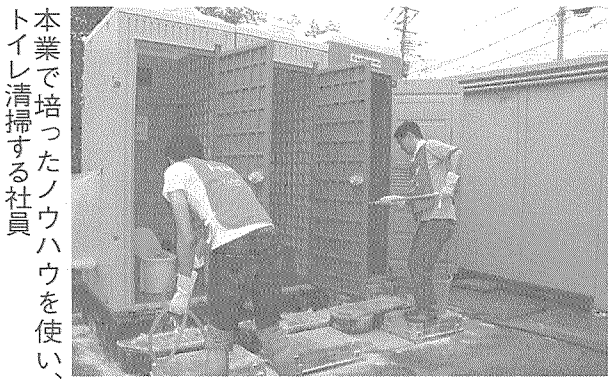
波紋広がるA I J問題

小林製薬はサワデーや消臭剤を製造しているメーカーで、トイレについてはプロフェッショナルな企業であるからだ。

グループ統括本社、さまざまな支援物資の提供にはじまり、寄付商品や売上げによる3億円の寄付をベースとした「青い鳥基金」の立ち上げなど、

社会貢献活動の現場から

小林製薬



東日本大震災から一年、現在も引き続き被災者支援を続けている多くの企業がある。今回、紹介するのは、「あつたらしいな、をカタチにする」というコピーで有名な小林製薬。

小林製薬は大阪に本社があることもあり、東日本大震災に際しては震災発生初期から支援に向けた動きをすることができた。企業の一つだ。

多くの支援活動を展開している。これら活動の中で特に注目すべきは、社員ボランティアによるトイレ清掃活動だ。

震災避難所のトイレ清掃

本業通じ社員がボランティア

広報部の小林昇氏は「トイレをちゃんとキレイにするにはノウハウがあり、今回のボランティアでは社員がそのスキルを活かしたボ

今、一つの流れとして、企業の社会貢献は「本業を通じた」ということがキーワードで、プロとしての社員がそのスキルを活かしたボ

読んだら考げないコラム

心をつまみでも老化させず、若々しく保つには!? 今回は加齢で増える心の病や老化対策をお届けします。

まず高齢期に気をつけたい心の病の筆頭は「仮面性うつ」。うつそのものは、仮面をかぶったように隠れ、一般的な身体症状だけが表に出るのでこう呼ばれます。この病気でよくある訴えは、食欲不振や不眠、消化器症状、下痢と便秘を繰り返す、また気分変動が大きく、同じことをクドクド、愚痴の連続や思考の空回りがあるなどですが、死にたい願望が強く、実行性も高いので危険です。特に高齢者では記念日自殺が多く、妻の命日に夫が(その逆は少ない)うですが()など、死にも意味づけを求めがちです。

もしも前記のような症状が、内科や消化器科で2、3週間以上治らないときは、精神科へも是非相談を。

そして気になる心の老化予防のポイント

40歳からのAge-less

ワンポイント④1 <こころ> 2

は、若いときと同じような行動を出来るだけ続けること。定年など行動パターンの激変は要注意です。予防には、少し早めに趣味や習慣など継続できることを始め、好奇心や心への刺激を失わないこと。たとえば書く、喋るなど。

「7近頃、スマートフォン、タブレット、デジカメなどの操作が面倒。」「8近頃、暗算(特に引き算、割り算)がすぐでできない。」「9近頃、外出が面倒。」「10近頃、文字を読まなくなつた。」

採点と評価

○を1問1点で合計。但し「近頃」を「若いころから」に言い換えると○になる場合は0.5点を加えます。

・10 9.5 85歳以上
・9 8.5 75歳以上
・8 7.5 65歳以上
・6 4.5 55歳以上
・4 2.5 45歳以上

老化予防はまず自覚から!

医療・福祉ジャーナリスト おちとよこ

(高い収益率)を記載した資料を示すなどして、投資一任契約を結ばせた疑い。

被害を受けた企業年金は今後、損害賠償請求訴訟も視野に入れた場合、①母体企業

が、A I Jの返還可能な現預金が81億円しかないため、巨額の損失は免れない見通しだ。この結果、「代行部分」で積み立て不足を解消できない状態が長期化した場合、

が拠出金を増やして穴埋めする②加入者の保険料を引き上げるか、受給者の給付額を引き下げる③基金の解散などの対策が必要になる。(松)

□1近頃、言い違い、書き間違いをするようになった。□2近頃、若者言葉が気になる。□3近頃、よかれとしたことで相手に迷惑がられた。□4近頃、涙もろくなった。□5近頃、鍵、財布、免許証、保険証、印鑑の2つ以上を忘れたことがある。□6近頃、世の中について行けないと思うことがある。□7近頃、スマートフォン、パソコン、タブレット、デジカメなどの操作が面倒。□8近頃、暗算(特に引き算、割り算)がすぐでできない。□9近頃、外出が面倒。□10近頃、文字を読まなくなつた。

メセナ協

被災地文化活動を支援

ファンド助成対象決める

企業メセナ協議会による東日本震災芸術・文化による復興支援ファンド(GBFund)の記者発表会が3月9日、学士会館(東京都千代田区)で行われた。

「GBFund」(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に同協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援基金で、今後5年間実施される。特に、郷土芸能支援にも注力していく方針で、「百祭復興プロジェクト」として緊急度の高い支援に対して枠を特別に設けた。

表現方法・形態は問わず、被災者の心身のケアにつながると思われるものや震災や被災地に関連するテーマのもの②被災地の有形無形の文化資源を再生して少額でも迅速に届ける

同協議会が受け付けた寄付総額は、6千万円を超え、助成決定額は約4千6百万円、助成件数は89件(2012年3月9日現在)。会見の中で同協議会・福原義春会長は、「震災孤族を防ぐは、「震災孤族を防ぐ」カブエプロジェクト」

いく活動の再開やそのために必要とされる調査や情報収集・配信、設備等の環境整備にかかわる活動など。助成を受けた活動は、「震災孤族を防ぐ」カブエプロジェクト」

同ファンドの選考ポイントには、①被災者の心のケアにつながる②被災地固有の文化資源にかかわる活動であり、地域再生の契機となる③実施が期待される④実施体制や活動計画が十分に検討されており、実現の可能性が高いこと。



GBFund活動を説明する福原義春(左)と協賛企業代表(右)。

「怪しいアプリ」にご用心 スマホから個人情報流失

米グーグル社の「アンドロイド」を搭載したスマートフォン(高機能携帯電話)で、電

Table with 4 columns: Company Name, Date, and Description of the incident. Includes entries for Dai-ichi Kangyo Bank, Aijun, and various other companies.

(BERC ニュースまとめ)

潮流

十五年後に「最も賞賛される企業番付」をつくるならどんな顔ぶれになるだろうか。BERCが今年設立十五周年を迎えるのを機に、そんなことを考えてみた。

15年後「最も賞賛される企業」魅力づくり競争時代へ

一位はアップル。同誌の企業評価がユニークなのは財務評価全盛時代の一九八二年にスタートしたときから「有能な人材をひき付けとどめて置く能力」と「企業の社会的責任」を八つの企業評価項目のうちに加えたことである。

経営倫理実践研究センター(BERC)の前理事長、福原義春氏が退任した。初代理事長として、BERCの発展に貢献した。在任14年間を振り返って、その思いを語った。(聞き手、千賀瑛二)

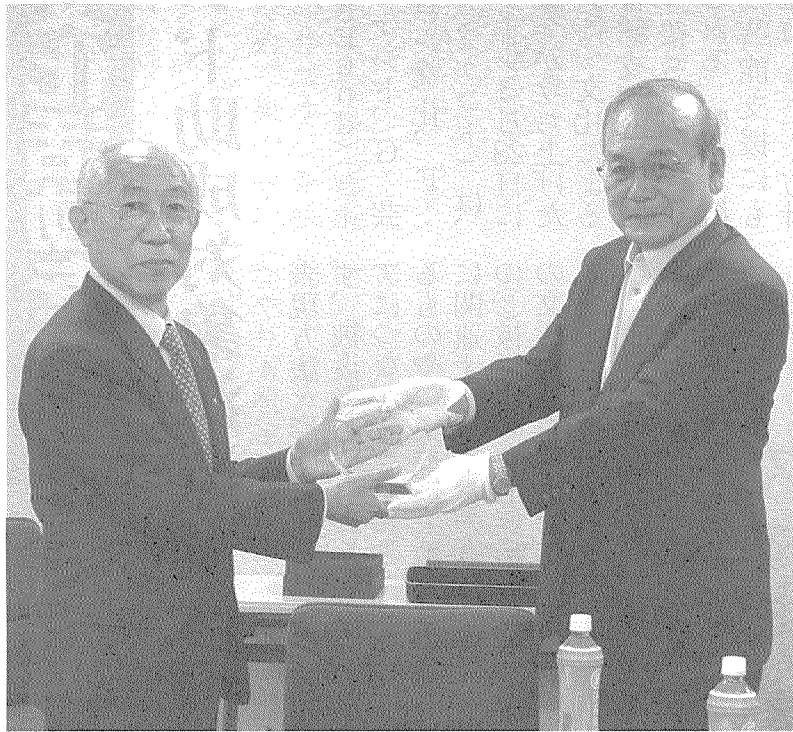
経営倫理実践研究センター(BERC)の14年

BERCは2009年10月、一般社団法人となる。法人化に向けた取り組みは、その数年前から始まった。会員同士でプロジェクトをつくり、どのような形がよいか、類似する団体で法人化して、どこを参考に、検討した。私も「公益法人制度改革に関する有識者会議」の座長を務めた知識を生か

回顧随想・福原義春 「経営の心」を想う

④

し、情報提供やアドバイスをを行った。多くの人の知恵と力を集めた結果、満足行く体制が整った。私が特に評価したい点の一つが、理事長を決めると同時に、次期理事長をどの企業から出すかも決める、という点である。一部の企業に偏らない、ということに加え、理事長に就く前に十分な準備ができる、というメリットが大きい。



2011年6月、理事長を退任、鳥原新理事長(右)から記念品を贈られる(左)

次期就任を承諾した会社は、執行役員クラスの経営倫理担当が理事として入り、BERCの組織運営などの知識を、あらかじめ身に付けてお

次期理事長を定め、基盤固める 非営利組織の存在ますます重要

写真美術館の館長で、今年で12年目になる。こうした組織のマネジメントについてはフリーリップ・コトラという

いでもらう。できれば、会社内でもBERC対応の担当部門を設けてもらいたい。そうすれば、執行役員らが得てきた情報や経験が、その部門に蓄積される。こうした「備え」があれば、理事長のバトンを渡された当初から、しっかりと注目を集めた。20年ほど前に日本で出版されたP.F.ドラッカー、中内功著『創生の時(往復書簡②)』の中で、日本でも今後、社会セクターの存在がますます重要になる、と「予言」した。その通り非営利組織が増

△ひとこと(カメラ) 伯父2人が芸術性にこだわる作品で有名な写真家だった影響で、小学生の頃からカメラに親しんだ。大学に入ると、彼らの小型イミテーションにはなるまい、と昆虫や草花などの自然を撮ることに熱中。今ではもっぱら蘭を相手にしている。

ふくはら・よしはる 資生堂名誉会長。1931年、東京生まれ。53年、慶應義塾大学経済学部卒業と同時に資生堂入社、取締役兼外部部長などを経て87年社長、97年会長、2001年から現職。BERC設立時から11年6月まで理事長。文部科学省参事、東京都写真美術館館長など公職多数。多読家、洋蘭栽培の趣味でも有名。

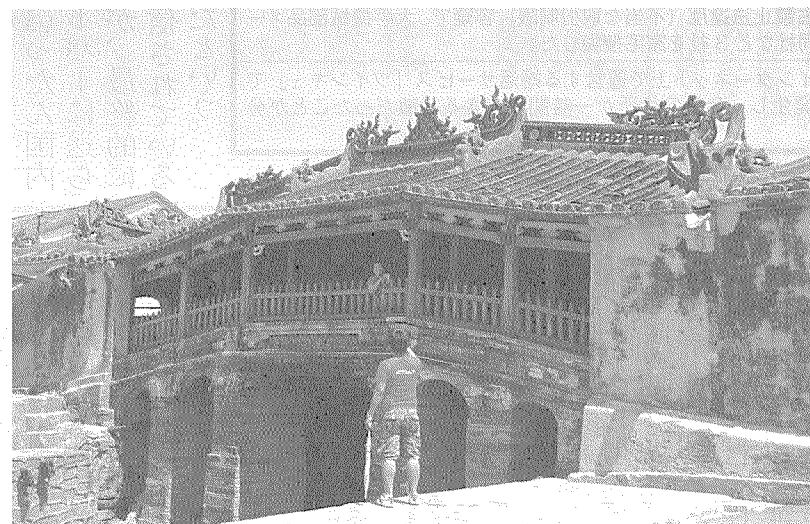
編集後記 経営倫理実践研究センターが創立15周年を迎えた。「経営倫理」や「BERCニュース」をはじめ、HPなどの媒体で、PRを開始した。また例年11月に開いている経営倫理シンポジウムも、今年は「15周年記念・特別シンポジウム」と位置づけ、現在、企画を進めて

この町で引かれるのは、道なりの木造家屋の造りで、とても懐かしい。おぼえるのは、こんな歴史的背景があるからかもしれない。(ジャーナリスト・松村崇夫)

地球交差点

取材メモに残ることなど... < 24 >

日本人町・ホイアン



墓石に次郎兵衛の名

日本人町ホイアンには、「来遠橋」という木橋がかかっている。撮影は2011年8月、フリージャーナリスト・横井弘海

中国、インドなどと並んで、めざましい経済発展を遂げるベトナム。その、南北に細長いベトナム中部地域の代表的な都市といえ

一時は3000人の日本人がいたらしい。この地は、1000以上の連れ帰った日本人もいる。町の入口に川があり「来遠橋」「日本橋」日本からは、刀剣や

あつたというが、訪ねた当時は、1000以上が住んでいたに違いない」と思わせる。しかも、家に住む人が何となく日本人的で、だから、何人かにあなたのルーツは」と尋ねたほどだった。ただし、返ってきた答えは「日本人ではありません」というものだった。

近くに日本人の墓があるという。案内してもらった。墓は、田んぼの中にあり、レンガの塀に囲まれて、墓石もあった。墓石からは「日本国：次郎兵衛：丁亥年」と読みとれた。正保4(1647)年、江戸時代にあたるようだ。

遣唐留学生として中国に渡り、唐の官吏に任用された阿倍仲麻呂のよく知られた歌だ。仲麻呂は、安南(かつてのベトナム)の節度使だったこともある。ベトナムに妙な郷愁をおぼえるのは、こんな歴史的背景があるからかもしれない。